市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会（第3回）

10月27日（火）午後7時～午後8時35分　赤城公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
1	赤城南中学校と赤城北中学校を早期に統合していただきたいです。早期統合後は、生徒の成長段階に応じたより幅広い教育環境が求められていることや、今後想定される部活の地域展開などの情勢を踏まえて、渋川中学校への統合を進めていただきたいです。	今回の説明会において、基本計画の策定期間を変更させていただくご説明をしましたが、資料1・14ページ「4検討の経過と今後の方針について」（3）今後の方針に記載しましたとおり、早期統合の要望への対応として、計画の策定と並行して、早期に進めていけるかどうかを含めて検討いたします。
2	赤城南中学校と赤城北中学校については、統廃合という形ではなくてもいいので、一旦、どこかの中学校に早期に組み入れることができないでしょうか。統廃合の形をとると、地域や保護者の意見をまとめて、実施できるのが早くても令和11年度以降になると思いますが、生徒数が少ない現状にすぐに対応する方法として、とりあえずどこかの学校に組み入れておくという形はとれないのでしょうか。 その対応をした上で、先々の目的として統廃合を考えていただきたいです。	
3	資料14ページ・「4検討の経過と今後の方針について」（3）今後の方針・④早期統合の要望への対応に、「早期対応を要する学校の選定」とありますが、その対象校はいつまでに、どのように決定するのでしょうか。 赤城北中では、生徒数の減少によって学校行事に影響がでているという話も聞いています。その辺りも加味いただきながら進めていただきたいです。	
4	子どもを数年後に中学校に通わせる立場であるのですが、計画を待っている時間がないので、来年、再来年、今すぐにでも赤城北中学校をどこかの中学校と一緒にしてほしいです。統合が間に合わないのであれば、違う中学校へ行くことも考えています。すぐに赤城北、南中学校を一緒にしてもらえると、今の環境よりも良くなるのではないかと思います。	
5	赤城北中は教育活動に問題も出ており、最短で赤北・赤南の統合をお願いしたいです。	
6	子どもをバス通学させると、迎えに行くことも何度もありますし、乗り遅れてそのまま学校にいるということもあります。 市と保護者との通学バスの話し合いの際に、子どもの乗降を確認する方法がないか質問したところ、「かなりの費用がかかるためすぐにできるものではないものの、検討する必要がある」という回答をいただきました。 適正配置を進めるに当たって、バス通学する人が増えるとなれば、子ども達を安全に送迎したかどうかの確認はより必要になることと思いますが、現状の取組の状況を教えてください。	学校の適正配置を進めることで、バス通学が増えることを想定しています。その状況において、子ども達の安全な通学を確保するためにも、バス通学における子どもの乗降確認は必要なことと考えております。 現状は、急な欠席や保護者の送迎を含めた確認方法がなく、乗降確認ができておりませんが、実施方法を含め、今後研究・検討させていただきます。
7	バスの乗り降りを確認する人材が必要ではないでしょうか。 （例）幼稚園バスでは、きちんとバスの先生が一緒に乗って確認しているので間違いがなく安心できる。	
8	藤岡市の鬼石地区では、小学校2校と中学校1校を義務教育学校にするそうです。 赤城地区については義務教育学校を設置することが良いと思います。	渋川市では、義務教育学校の最大のメリットは、1人の校長先生が1つの校舎で1年生から9年生まで一貫して教育を設計することができるところにあると考えています。藤岡市では、渋川市の想定と異なる方法（施設分離型）により義務教育学校を導入することになりますが、義務教育学校の研究に当たり、参考にします。 この場合において、説明会等でいただく義務教育学校導入に関するご意見について議論をしないということではありませんが、市の考えとして、まずは一定の学校規模が必要であるという考えがあることをご承知ください。 （参考） 昨年度策定した「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」では、適正な規模を達成することを前提としているため、複数学級にならないなど、小規模校のデメリットを解消しきれない「適正規模化を伴わない義務教育学校の導入」は想定をしないという考え方をまとめています。
9	資料11ページ・「2検討を要する論点」（3）引き続き研究を進めていくものとして、義務教育学校の設置についてとありますが、設置の有無が決まらないと話が進まないと思います。	
10	義務教育学校の設置について、市では、適正規模化という事が大前提になっているかと思いますが、この場合の「適正規模」については少し柔軟に考えていただきたいです。	
11	義務教育学校は適正規模を下回っても設置可としてもらいたいです。	
12	小中一貫校は良案だと思います。赤城においては、赤城北中、赤城南中を軸として行えば、先輩から後輩へと様々な面で色々伝承できると思います。	
13	私個人としては赤城に小中一貫校。	

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
14	津久田小学校と三原田小学校を統合してもらいたいです。統合後の学校については、国が示す適正規模の基準に関わらず、地域文化の継承や地域コミュニティの拠点として、また、防災拠点などの機能を考慮し、赤城地区の中心部に新設し、存続することを基本としていただきたいです。	適正規模・適正配置を進める発端には、「子どもの教育環境の改善」や「子どもの選択肢を確保すること」があります。それには、一定の規模（人数）が必要になります。また、学力や心の成長には、一定の学級数がいるという考えもあります。 それらを実現する中で、地域のつながりも要素に含め、「教育のこと」「まちづくりのこと」「行政運営のこと」のバランスをとりながら、子どもたちが望ましい環境で学び続けることができるよう、学校の適正規模・適正配置を進める必要があると考えています。 これまでにも、保護者や地域住民、その他関係者の皆さんのそれぞれの目線から、素案モデルに対するご意見や新たなモデルの提案などのご意見をいただいておりますが、「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」の策定期間を延長したことにより、案を絞り込むための議論の量の増加や適正規模・適正配置への理解度の向上、より多くの関係者への情報周知などに取り組むことができると考えています。 新たな素案の提示に当たっては、これまで、そしてこれからいただくご意見等を整理し、子どもたちが望ましい環境で学び続けることができるような計画の策定に向けて検討を進めます。
15	最低でも各地域に小学校1校、中学校1校にしてほしいです。	
16	赤城地区の振興を考える会では、人口増加対策を陳情しました。人口増も考えられるので、赤城地区内の統合を希望します。	
17	赤城地区は、小学校1校、中学校1校で良いのではないでしょうか。	
18	津久田小、赤城北中を残してください。	
19	赤城地区は、旧横野、旧敷島地区があり、地形的にも上段、下段と分離しているため、現在の小学校2、中学校2が最も良いと思います。 その地域ごとに特色のある伝統行事等があると思います。統合、統合と推し進めると日本の良い伝統や風習がなくなると思います。最低限、現状を維持していただきたいです。	
20	合理化、統合ばかり走らず、現状をいかに守るべきかも検討すべきではないでしょうか。	
21	赤城地区の子ども達の教育環境の早期改善と地域の納得を両立するための1つの提案として以下を考えました。①中学校は、赤北中を赤南中に先行的に統合。②基本計画に基づいて、そこへ北橘中も統合とし、段階的に実施（通学バス経路等を何度も計画することを防ぐ）。③小学校は、赤城・北橘それぞれ1校残す。 将来の子どもの数や通学環境を踏まえて、検討していただきたいです。	
22	赤城北中、南中を早期に統合することに関してですが、その次のフェーズに進むまでの「仮統合」という形はとれないものなのでしょうか。	
23	赤城地区の小学校は1校に統合。中学校も1校に統合する。中学校は、その後渋川中又は子持中に統合する。若い世代が赤城にUターンできるような統廃合であってほしいです。	
24	人数ありきの適正規模・適正配置を行うに当たって、市内に行くのではなく、郊外でもメリットが多数あると思います。災害時の避難場所になるし、車中泊のスペースもあり、防災ヘリも降りる場所も確保できるところが多いと思います。炊き出しも給食センターを使えるメリットがあるので、市内学校ではなく郊外学校があっても良いと思います。	
25	本日配布されると思っていた「修正案」を前提にした意見を別紙にまとめました。	
26	「全市的に統廃合を検討する」のであれば、全市的な渋川市の学び、理念のもとで検討していくべきです。そうすると、統合される側となる古巻地区、子持地区にも関わることになると思います。また、多様性を重視する学びを目指すのであれば、全体のなかで統合される学校、残す学校が精査されてくるものと思われます。 逆に、「将来的に小規模校となる学校だけの統廃合」を検討するのであれば、渋川市の学び、理念が置き去りにされる可能性が高いと思います。	
27	PTAの役員会において、今回のような説明会をPTAとして開催したい旨を提案したところ、学校から「公平性を担保する形で、PTAでは開催できない」という回答がありました。より多くの保護者に周知するに当たって、保護者が集まりやすい場所でやる必要があるのに、学校ではできないというのは矛盾を感じるのですが、その回答内容であっているのでしょうか。 少なくとも市が素案として示した中で、適正配置によって学校がなくなる可能性がある地域の保護者については、生活スタイルを変更する必要もあると思うので、積極的に対応いただく必要があると思います。	「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」の策定期間延長に合わせ、より広く関係者の方に、この取組の周知を図りたいと考えています。PTAの方に対して情報提供や意見交換の場を設けたいと考えています。 また、「しぶかわ出前講座」を活用して、個別に説明を希望される団体もありますので、今後実施する地域説明会と合わせて、学校の適正規模・適正配置について、ご理解いただいた上で意見交換等を進めていけるよう情報発信等に努めます。
28	今後、保護者になる可能性がある若い世代等の幅広い世代へのアプローチはどのように行う考えでしょうか。	これまでの説明会等の意見交換において、「子どもの検診」や「はたちを祝う会」などで若い世代に周知することの提案をいただき、現在実施方法等を検討しているところです。

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
29	赤城地区から渋川市内の学校に通学することになる場合に、JRの利用も通学方法として考えていただけるのでしょうか。	学校の適正規模・適正配置により、バス通学等が増えることを想定しておりますので、児童生徒及び保護者の負担を考慮した検討を進めたいと考えています。 また、これまでの通学方法の検討の中に、電車通学の話は出ておりませんでした。公共交通機関として、路線バスを使った通学をしていただいている実態があることを考えますと、電車通学も十分検討の余地があると考えます。
30	小中学校の統廃合によって、遠距離通学が増えることが想定されます。スクールバスの充実など、万全な方策を講じていただきたいです。	
31	現状の課題を解決して、子ども達に適正な教育をしていくことが大事だと思いますが、30～40年という長い期間では、赤城地区の適正人口を1万2千～1万5千人と目標設定をして、小学校を5校に、中学校を2校に戻すような地域を目指して市として地域づくりをしてもらいたいです。	人口減少対策として、子育てに限らず、まちづくりの分野でも様々な施策を講じているものの、多くの自治体同様に、渋川市内の人口は減少している状況にあります。 今回は学校の適正規模・適正配置の検討となり、教育の分野に焦点があたった内容になりますが、現在、これと並行するかたちで、「総合計画」の見直しも進んでおります。 総合計画では、教育の分野も含めた、市全体としてどのようなまちづくりをするか検討することになります。学校の適正規模・適正配置の検討を進める上では、総合計画を含む、他の市の施策等の連動も図りながら対応したいと考えています。
32	渋川市の人口が増える対策も考えていく必要があると思います。	
33	児童、生徒数を増加させる対策が必要だと思います。	
34	適正規模・適正配置を進めるに当たり、「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」策定後に、計画に沿って地域の協議会で詳細な検討を進めると説明がありました。 計画には統廃合の案が掲載される認識でおりますが、案が決まる前に地域住民を含めた協議会を作成して検討することはできないのでしょうか。	適正規模・適正配置の進め方として、「先に地域での協議会を設置して協議を進めて、その結果をまとめて実施計画を作る方法」と「説明会やアンケートで意見を集約して計画を策定し、その計画に基づいて協議会で詳細を調整する方法」があります。 前者については、誰が協議会に入って議論するのかという協議が必要であったり、市の考えを全体に示すのが遅くなったり、考慮すべき点があると考えています。 そのため、渋川市では後者の方法で、先に市の全体のイメージをなるべく多くの方にお見せして、広く議論をする形をとりました。「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」を策定し、その計画を基に各協議会の中で最終的な議論を進めていく形を想定しております。
35	学校の適正規模・適正配置の検討に当たっては、地域の中でも意見の相違があるようですが、どのように調整をしていく考えですか。	
36	成人式等で情報提供していくとありましたが、情報提供をどのように行うのでしょうか。ここで意見を聞いて、統廃合に組み込めるのでしょうか。いつの時点で、市の方針が示されるのか聞きたかったです。	幅広い世代の意見を聞きながら、学校の適正規模・適正配置の検討を進めるに当たり、「はたちを祝う会」での周知等を検討しています。実施に当たっては、スマートフォンからアクセスできるような方法で対応できるよう検討いたします。 なお、渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画の策定期間延長により、令和9年1月に開催予定の「はたちを祝う会」において情報提供等を行い、令和9年度中に策定する計画の検討に当たって参考としたい考えでおります。
37	若い世代へのアプローチについては、統廃合のことを具体的に考えることは難しいと思います。少なくとも、渋川のあるべき学びの姿について、一緒に考えてもらう機会はつくっていただきたい。アンケートをスマホで入力できるようにして、QRコードをつけていただきたいです。	
38	部活、クラブの地域展開との関係をどう考えているのでしょうか。また、中学校の統廃合では、部活の地域展開を全く考慮しないのでしょうか。	部活動は、現在「部活動の地域展開」を進めています。令和8年～10年までを改革実行期間（前期）と位置づけ、まずは休日の部活動について、学校部活動を受け入れる地域クラブの種類、種目を増やしていく予定で進めています。学校の適正規模・適正配置の進捗により、各学校の活動の状況も変わりますので、地域の皆さんのご協力のもと、子ども達が学校外でも活動できる場所ができるよう調整いたします。 なお、「部活動の地域展開」の進捗状況や具体的な内容は市のホームページからご確認いただけます。 □ホームページID：15639 □URL： https://www.city.shibukawa.lg.jp/kyouiku/000110/000112/p015639.html#
39	赤城の中学校には、通級指導教室がありません。北橘まで通うのはとても大変です。公平な教育環境を確立してください。	通級や情緒学級については、学校の適正配置がどのようになるかによって検討を進めることになります。担当する教員や学級数などについても、群馬県とも協議が必要になると想定しています。

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
40	授業参観の後に説明会があれば、保護者に周知できるのではないでしょうか。	今回の説明会は、広報しぶかわや市のホームページ、市の公式SNSのほか、児童生徒の保護者向けのメール（すぐーる）、未就学児の保護者向けのチラシ配布で周知しました。 「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」の策定期間延長に合わせ、より広く関係者の方に、この取組の周知を図りたいと考えています。PTAの方に対しても情報提供や意見交換の場を設けたいと考えています。 また、未就園児等の保護者やこれから出産する方への情報提供につきましても、なるべく目に付くように周知をしていきたいと考えます。
41	保護者の参加が少ないように感じました。	
42	これから子どもを学校に通わせる保護者の意見を取り入れてほしいです。小学校、幼稚園、保育園に通っている子がいる保護者の意見が大事なのではないでしょうか。	
43	現役保護者の意見をどうにかしてもっと出してもらえるように方法を考えねばと思います。	
44	地域の方々と保護者の間で考え方の違いが多くありそうな印象を受けたので、学校や保護者への周知が必要だと思いました。子どもが楽しく学校に通えるのが一番なので、保護者の声は、多く必要かと思います。	
45	説明会の参加者は、子育てを終えてしまった世代が多い傾向にあります。呼びかけをして、保育園等、小中学校の子どもさんを有する親の参加が多くなる工夫をしていただきたいです。擬かしいようならば、保育園、幼稚園、小学校、中学校へ行って、保護者への説明の機会を設けていただきたいです。	
46	協議会メンバーは立候補制でお願いします。	「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」策定後に設置することになる、より具体的な検討を進める協議会等の構成につきましては、今後、検討・調整いたします。
47	赤城地区は特に人口減少が激しく、将来の子ども達のことを考えれば、やむを得ない面もあります。日本人特有の子ども達への昔からの教育方針は継続することが大事。通校のため、スクールバス等安全を充分考慮した通学確保は大事。	―
48	P10の検討を要する論点は、適正だと思いますので、この方向してもらいたいです。	
49	合併しなかった町村の統合対策を参考にしてほしいです。川場村、高山村、昭和村で小中学校がなくなることは全く想像できません。	
50	ぜひ、コスト重視ではない計画づくりをお願いします。街を小さくする計画は、結果的に渋川市が無くなる方向の話となります。子ども達が将来の渋川市の姿です。	
51	全体で小中学校の統合を理解していても、地域に学校を残しての意見は矛盾していると思います。	
52	どこの地域も学校を残せ！では統合できないと思います。	
53	大人や地域が中心の意見、地域が第一の意見が多く感じました。オール渋川で考えるなら、地域の壁を乗り越えさせるのは大人の知恵です。	